

# 令和3年度第4回仙台市宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和4年度まちづくり活動助成事業計画説明会 議事要旨

日 時：令和4年3月8日(火) 午後6時30分～7時20分  
場 所：宮城野区中央市民センター3階 第3会議室  
出席者：井上委員長、佐藤副委員長、有坂委員、葛西委員  
まちづくり推進課

## 1 開会

※新型コロナウイルス感染予防による入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

## 2 事業計画説明及び質疑応答

(1) 事業名：X橋と駅東の歴史文化の伝承・共有プロジェクト

団体名：X橋保存会

### <質疑・意見>

委 員 モニュメントのサイン製作費が20万円と計上しているが、外注するのか。

説明者 業者へ委託し、5年や10年など期間を限定して公開する予定である。

委 員 一度10年の契約を締結すれば、今後追加料金が発生することはないのか。

説明者 見積をとっていないため詳細な金額は未定だが、通常だと5年契約になる見込み。無料のものもあるが、いつ使えなくなるか分からないため、業者へ依頼をしようと考えている。

委 員 以前、団体側である程度の資金がある、ということをおっしゃっていたが、その資金をモニュメントのサイン製作費に充てることは可能なのか。

説明者 7年ほど前の「渡り初め」の際にいただいた寄付金の残りが30万円ほどある。

委 員 モニュメントの設計図はまだできていないのか。

説明者 設計図はできているが、文章等の中身についてはまだできていない。

委 員 モニュメントのサイン(PDFの文章作成費)に10万円と見込んでいるが、どのくらいの量になるのか。

説明者 5ページほどの量になる予定。

委 員 座談会のテープ起こしに6万円充てているが、外注する予定なのか。また、テープ起こしをするということは、まちづくり講座の内容を成果品として出す予定なのか。

説明者 成果品として出す予定。テープ起こしは、学生アルバイトに依頼する予定。成果品として市へ提出するかは未定。

委 員 まちづくり講座の参加者謝礼とは何か。講師謝礼と何が違うのか。

説明者 まちづくり講座の座談会に役所OBや大学の先生、まちづくりに詳しい方などをお呼びする予定。参加者謝礼としているのは、座談会形式で、ゲストとして来てもらうためこのような表記とした。

委 員 事業計画書に様々な団体と協力して進めていきたい、と記載されているが、現時点で記載している団体とX橋によるまちづくりについて意見交換はしているのか。

説明者 すでに協力してもらっている団体はいくつかある。専門学校等については、これから声掛けをし、一緒にやっていきたいと思っている。

<協議結果>

助成事業として採択する。

(2) 事業名：ケアブレンドカフェミヤギノ

団体名：特定非営利活動法人ケアブレンド

<質疑・意見>

委員 事業計画を見ると、非常に多くの方へ協力を依頼する予定となっており、大変でないかと思うのだが、協力の声掛けをする際に工夫していることはあるのか。

説明者 新規に声掛けも行っているが、リピートして何回も来てくれる方や参加者から人伝いにカフェについて知り、来てくれる方が多い。

委員 収支予算書を見ると、インシャルコストではなく、ランニングコストとして毎年継続して活動していくためにはこのくらいのお金がかかるのだということが分かる。助成金で活動できる今のうちに、今後助成金なしで活動していくためにどうしたらよいか（企業へのPRや協賛金、寄付金など）考えて準備してほしい。

説明者 今年度は自己資金を増やす取り組みに力を入れたいと思っている。

委員 大きな財産となるのは運営協力者がどんどん増えていることだと思う。そのような方々のモチベーションをどのように保っていくのか（振り返り会の開催等）についても考え、そのような活動も事業計画に含めていただけたら良いと思う。

委員 現在、常勤のスタッフは何人か。

説明者 2人。

委員 (収支予算書に記載の) 振込用紙とは、賛助会員等から寄付をいただくためのものか。

説明者 その通り。

委員 参加者からスタッフやボランティアを除いた純粋な参加者数というものを令和4年度の活動報告では見せていただきたい。

<協議結果>

助成事業として採択する。

(3) 事業名：デイハウス

団体名：デイハウス運営委員会

<質疑・意見>

委員 参加を呼びかける住民の主な範囲は「幸町小学校区」ということで良いか。

説明者 地域を限定して参加を呼びかけているわけではないが、今のネットワーク上、幸町にとどまってしまうのが現状であり、課題であるとも考えている。  
しかし、デイハウスは幸町地区だけでなく、栢江地区や二の森地区からも参加してくださっており、垣根なく参加できるということが参加者からも気に入っていただいている点である。

委員 なぜ宮城野区に焦点を絞って活動しようと思ったのか。

説明者 以前、仙台市から補助金を受けて行っていた事業は訪問型の支援サービスによる事業だったが、その時も宮城野区と同じ会場で行っていた。今回、申請する事業は通う形式の支援サービスであり、今までと同じ会場で行おうと考えていたため、宮城野区で申請をさせていただいた。

委員 既存の福祉事業者が多くある中で、デイハウスの立ち位置はどのようなところであると考えているか。また、将来的に収益事業にする予定はあるか。

説明者 デイハウスの存在意義として、対象エリアを限定していない点があると考えている。地域の方と福祉の専門職とのつながりが薄いと感じているため、デイハウスが両者を

- つなぐハブのような役割、関わるきっかけづくりを担うことができると考えている。将来的には、デイハウスの活動はNPO法人化して活動していきたいと考えていた。それ以外に、地域住民の元へ専門職職員を派遣し、御用聞きサービスのような事業ができればと思っており、こちらは収益事業としてやっていけたらというイメージでいた。
- 委員 コロナ禍にも活動していたと思うが、発表資料に掲載されている写真はコロナ禍以前のもの（マスク等していない）なのはなぜか。最新の活動の様子を見てみたかった。
- 説明者 コロナ禍となって活動が断続的であったり参加者が少なかったりしたこともあり、本来のデイハウスの活動を見せたくてコロナ禍前の写真を使用した。
- 委員 コロナは今後完全になくならないということを考えると、従来のような食事形式はありえないと思う。
- 説明者 コロナ禍となってからは、作った食事を持って帰ってもらったり前を向いて黙食してもらったりという工夫をしていた。従来と同じ食事形式は難しいとは思いますが、一緒に食事をするという時間は孤食を防ぐ上で非常に重要であると考えている。そのため、可能な限り、食事を皆でできるような方法を模索していきたい。

<協議結果>

助成事業として採択する。

### 3 閉会